

科目別学習計画

60時間コース

①生活支援の理念と介護における尊厳の理解 ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 尊厳を支えるための専門職としての意識を持った行動が取れる。 2 利用者一人ひとりがその人らしい生活が継続できるよう、尊厳を支える介護を提供することができる。 3 利用者の生活意欲を引き出し、自立支援や介護予防の視点で介護を提供することができる。 4 学習した生活支援を目標に、創意工夫のある取り組みを行うことができる。 5 市民としての権利と義務を持ち、社会生活を送る主体として利用者をとらえ、適切に対応、支援することができる。
修了時の評価ポイント	<ol style="list-style-type: none"> 1 生活とは何かを説明でき、多様な生活を支援する重要性について、事例に基づいて説明できる。 例:生活とは人によって違うこと、その人らしい生活を尊重すること、これまでの生活の継続の重要性など 2 ノーマライゼーションの概念を、高齢者や障害者の生活の事例に基づいて説明できる。 3 QOLの意味を説明でき、高齢者や障害者の生活の事例に基づいて説明できる。 例:主体性の尊重、自己決定、生活の質の向上を目指すということ 4 家族による介護と専門職による介護の違いを説明でき、専門職が介護することの意義を、事例に基づいて説明できる。 例:自立支援、介護予防の重要性、虐待防止、身体拘束の禁止 5 介護の目指すものは何かを説明でき、具体的な例をあげ、その中に含まれている介護の専門性を事例に基づいて説明 例:生命の維持を中心とした介護からその人らしい生活を支援する介護への転換、生活の場を建物内に限定せず、全ての人に地域生活支援を行うこと、介護の原則、機能・役割等 6 自立支援やICFの概念について、高齢者や障害者の事例に基づいて説明できる。 7 すべての人に対する地域生活支援の意義、役割について説明することができる。 8 高齢者や障害者が、地域で生活を継続するために、各種の保健・医療・福祉サービスや地域のインフォーマルなサービス・活動とのトータルなネットワークの重要性について概説できる。 例:公的サービスとしてのフォーマルサービス、ボランティアや近隣の人々などによるインフォーマルサービスについて 9 高齢者や障害者の近隣の人々や地域の人々に対して、意識啓発が必要な場面や状況を具体的に説明でき、啓発の方 10 虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシー等を傷つける介護を説明でき、対応策を説明できる。

イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・人間観や人間像の理解に基づいた尊厳を支える介護・福祉について理解させる。 ・介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点の形成を促す。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人間理解と尊厳 <ul style="list-style-type: none"> ○人間理解の視点、豊かな人間観、多様な価値観、○老い、○尊厳、○死生観、○性 ・生活の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ○生活の定義、○生活支援の考え方 ・福祉の支援の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの福祉の考え方の流れ、○ノーマライゼーション、○QOL、○家族介護から社会介護へ、○エンパワメント、共生 ・介護の基本的な視点と意義 <ul style="list-style-type: none"> ○尊厳を支えるケア、○介護の定義、○介護職員の専門性、○健康かつ主体的・能動的な生活に向けた支援(自立支援、尊厳の保持・自立支援のために保障すべきケアの水準)、○ICFの視点に基づく援助、○介護の専門性とチームケア ・地域生活支援と保健・医療・福祉サービス及びインフォーマルな活動等とのトータルなネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ○すべての人を対象とする地域生活支援、○地域アセスメント、○資源調整と啓発、○フォーマルサービスやインフォーマル活動等のトータルなネットワークの重要性 ・利用者の権利と尊厳 <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の権利擁護・アドボカシー(権利擁護の主張)、○虐待の防止、○身体拘束の禁止
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・障害があっても地域の中での望ましい暮らしを続けるために、尊厳を支えるケアや生活支援のあり方・方法等について、自分自身の生活に照らして考察できるように展開すること。 ・市民として社会生活を送る高齢者や障害者等へのインタビューなどを通して、それぞれが歴史を重ね、さまざまな社会関係を持ち、主体的に暮らす市民であることが理解できるように展開すること。 ・介護職員へのインタビューなどを通して、介護の意義や専門性、働きがいなどを考察できるように展開すること。 ・虐待、身体拘束が起きてしまう背景、権利擁護のあり方などについて、事例をもとに考察できるように展開すること。

⑦医療及び看護を提供する者との連携

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>1 介護職員としての役割とその範囲を十分に踏まえた上で、医療・看護との連携の必要性を理解し、医療ニーズを持つ利用者に対して、チームの一員として適切な連携をとりながら介護を展開できる。</p> <p>2 医療ニーズを持つ利用者に対して、介護を行う上での留意事項や報告事項を理解し、適切な観察、及び報告、記録ができる。</p> <p>3 非医行為の範囲について理解し、現場で適切な緊急時対応及び応急処置を実践できる。</p> <p>4 ターミナルケアについて、本人・家族への説明と了解を得るなど、チームの一員として対応することができる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>1 医療・看護との連携の必要性について説明でき、その具体的な連携のとり方及び介護職員の役割について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>2 非医行為の範囲について具体的に説明できる。</p> <p>3 訪問看護の制度、援助内容について説明できる。</p> <p>4 医療機器、医療用具の使用目的や利用者の生活上の留意点について概説できる。</p> <p>5 主な薬の種類と効能、主な注意事項(服用方法、保管方法など)について概説できる。</p> <p>6 褥そうの要因について概説でき、褥そう予防・悪化予防における介護職の役割と医療職との連携について説明できる。</p> <p>7 リハビリテーション医療の理念、目的、体系について説明できる。</p> <p>8 リハビリテーション医療の過程(急性期、回復期、維持期)ごとの特徴、リハビリテーションのあり方について概説できる。</p> <p>9 リハビリテーションチームを構成する職種とそれぞれの役割、連携の仕方について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>10 緊急時にとるべき行動、応急処置の方法や留意点等について、事例に基づいて説明できる。</p> <p>11 ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、本人・家族への説明と了解並びに介護職員の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、事例に基づいて説明できる。</p>

イ 内容例

指導の視点	<p>・医療・看護との連携の必要性和チームの一員としての介護職員の役割を理解させる。</p> <p>・介護職員がふれる機会の多い医療機器や薬、リハビリテーション医療等に関する基礎知識を習得させる。</p> <p>・医療ニーズを持つ利用者に対して、医療・看護との連携の下で行う介護技術を習得させる。</p> <p>・ターミナルケアへの対応について理解させる。</p>
内容	<p>・医療・看護との連携の基礎的理解</p> <p>○医療、看護との連携の必要性の理解と方法、○非医行為の範囲と対応の基礎</p> <p>・訪問看護の基礎的理解</p> <p>○訪問看護制度、○訪問看護の援助内容、○在宅医療・在宅看護の進展</p> <p>・医療機器、医療用具、薬の基礎的理解</p> <p>○胃ろう、腸ろう、鼻腔栄養、中心静脈栄養、点滴、○吸入、吸引、○人工呼吸器、在宅酸素、○浣腸、摘便、○人工肛門、人工膀胱、○薬(種類と服用方法、副作用とリスク、多剤併用での相互作用)</p> <p>・褥そう予防に関する基礎的理解</p> <p>○要求と発生機序、○介護職が行う褥そう予防・悪化の防止、○医療職が行う褥そうの治療・処置</p> <p>・リハビリテーション医療の基礎的理解</p> <p>○リハビリテーションの理念、基礎、○リハビリテーション医療の過程(急性期、回復期、維持期)とリハビリテーションマネジメント、脳卒中モデル、廃用性症候群モデル、○リハビリテーションチーム職種との連携</p> <p>・緊急時の対応方法</p> <p>○緊急時における連絡・連携と介護職員の役割</p> <p>・ターミナルの対応</p> <p>○ターミナルケアの条件と介護職員の役割</p>
展開	<p>・医療・看護との連携については、事例から実際の対応方法や留意点、介護職員としての役割とその範囲(提案や調整等を含む)等について考察すること。</p> <p>・視聴覚教材の活用、在宅や介護施設で用いられる頻度の高い機器や用具の活用などによって、具体的なイメージをもって理解できるよう展開すること。</p> <p>・主な応急処置を実技で模擬経験すること。</p>

⑧介護における社会福祉援助技術

ア 到達目標・評価の基準

行動目標	<p>1 利用者・家族のニーズや心情をくみ取り、その主体性を引き出すことができる。</p> <p>2 チームの一員として、社会資源との連携・活用をしつつ、利用者・家族に対して働きかけや関わりを持つことができる。</p> <p>3 利用者・家族のニーズを把握し、社会資源に適切につなげるために、チームの中で提案をすることができる。</p>
修了時の評価ポイント	<p>1 介護におけるソーシャルワークの重要性と、介護職員としてもつべき視点について説明できる。</p> <p>2 「バ이스ティックの7原則」について概説でき、実際の介護場面において、「バイスティックの7原則」が活かされる状況について、具体例をあげて説明できる。</p> <p>3 家族が抱きやすい心理や葛藤について概説でき、それに応じた適切なコミュニケーションや働きかけについて、事例に基づいて説明できる。</p> <p>4 利用者の生活の場(施設、居宅)に応じて、利用者の生活空間を地域に広げるための具体的な方法やその際の留意点について、説明できる。</p> <p>5 困難事例において、具体的な利用者や場面を設定して、様々な角度から、その対応方法について説明できる。</p> <p>6 利用者の代行的な援助ではなく、動機づけやエンパワメント、社会資源の活用等により、自立支援を行う方法について、具体的な利用者や場面を設定して、説明できる。</p> <p>7 虐待、消費者被害等が疑われる典型的な徴候・場面などについて説明できるとともに、虐待、消費者被害等が疑われる場合の原則的な対応の考え方を説明できる。</p>

イ 内容例

指導の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・介護において求められるソーシャルワークについて、理念を理解し実践的援助技術を習得させる。 ・地域を含めた生活環境づくりの視点と方法を理解させる。 ・困難事例等への対応において、チームケアの一員として、どのような役割を果たすべきか考え、連携の具体的方法を学ばせる。 ・利用者家族とのコミュニケーション技術、家族支援の具体的方法を学ばせる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるソーシャルワークの基礎的理解 ○介護におけるソーシャルワークの必要性、○ソーシャルワークの目的と内容、○ソーシャルワークの展開(ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク) ・介護における相談援助技術の習得 ○相談援助とバイスティックの7原則、○高齢者、障害者(児)の家族支援、○高齢者、障害者(児)の家族の心理の理解 ・地域に根ざした包括的なケアの必要性 ○地域生活を支える総合的な在宅ケアシステム(24時間・365日の地域生活の支援、利用者・家族のニーズと地域密着型サービス等各種サービス・機関の連携)、○各種社会資源・インフォーマルサービスの活用・開発(市民活動・NPO、生協、農協等)、○事業者間連携、○施設から在宅へのサービス展開 ・地域生活支援の実際 ○利用者の生活空間を地域に広げる視点、○利用者のインフォーマルなつながりの重要性、○近隣への依頼・連携の方法、○地域環境を生かしたケアの実際(地域との交流、外出プログラム等)、○地域資源とのネットワークづくり ・困難事例に対する援助活動の展開 ○サービス拒否、多問題ケース、家族とのトラブル、○不適正事例 ・虐待防止、消費者被害、権利擁護への対応 ○介護サービスを通じての問題発見、○問題が疑われる場合の対応、 ○相談機関等との連携、○エンパワメント、アドボケート
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・事例やビデオ教材などを用いて具体的な利用者像を想定し、ソーシャルワーク技術を活用した具体的な援助方法、介護職員の役割等について討議し、ロールプレイなどを行うこと。

